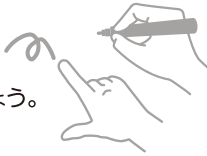


しゅわ い がい

手話以外のコミュニケーション

- 筆談** ひつ だん
紙とペンを使用します。文章をそのまま書くのではなく、短い言葉を使って、わかりやすく、読みやすい字で伝えましょう。
- 空書** くう しょ
空間に指で大きくゆっくりと、わかりやすい文字を書くように心がけてコミュニケーションをとりましょう。テーブルや手のひらなどに書く方法もあります。
- 音声** おん せい
少し聞こえる人がよく使うコミュニケーション方法です。大声を出すと、逆に聞きづらくなることがあるので、ゆっくり口を動かしながら、ゆっくり話すようにしましょう。
- その他** た
その人の希望や必要に応じて、コミュニケーション方法を工夫しましょう。イラストや図を描いたり、ジェスチャー(身振り)をして伝えたいことを表現することも有効です。さまざまな方法を組み合わせてみましょう。



POINT

ポイント

コミュニケーションをとるときは、話の内容が相手に伝わっているか、こまめに確認しながら進めましょう。一番大切なのは、「相手に伝えようとする気持ち」と「相手が伝えたいことをわかってもらう気持ち」です。

このマークを知っていますか



耳マーク

耳が聞こえない・聞こえないことを示しています。このマークを見かけたら、必要とされるサポートをしましょう。



聴覚障害者標識
聴覚障害であることを理由に運転免許に条件を付された方が車に表示するマークです。

～みんながつながるために～

府中市手話の普及及び 障害者の意思疎通の促進に 関する条例

府中市では、令和3年4月1日に「府中市手話の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例」を施行しました。手話を必要とする人々が、不便や不安を感じることなく生活できることはもとより、全ての市民が障害の有無にかかわらず、相互に尊重し合いながら、住み慣れたまちで安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指します。



●問合せ先 府中市福祉保健部障害者福祉課

TEL 042-335-4545 FAX 042-368-6126

メールアドレス syougai01@city.fuchu.tokyo.jp

URL <https://www.city.fuchu.tokyo.jp/gyousei/hosin/jyorei/shuwa-ishisotsu-jyourei.html>



ほっとするね 緑の府中

聴覚障害者へのサポート



人によって、聞こえかたの程度はさまざまです。
 また、全ての耳が聞こえない・聞こえにくい人が手話を使うとは限りません。
 サポートするときは、その人に「何かお困りですか?」
 「お手伝いしましょうか?」とたずねて、
 どのような支援が必要か理解したうえで、
 行うことが大切です。

こんなことで困っています

周囲の状況がわからない
 自動車のクラクションなどが聞こえず、
 路上で危険な目にあうことがあります。
 また、災害が起きても気づかなかつたり、
 状況判断が遅れることがあります。

外見からはわかりにくい
 見た目ではわからないので、
 困っていても周りの人に
 理解してもらえない
 ことがあります。

正しく伝わらないことがある
 声を出して話すことが
 うまくできない人もいますので、
 細かいことが伝わらず、
 誤解が生じることもあります。

放送や呼び出しに気づかない
 駅や商業施設などの
 放送による案内などが
 わかりません。
 病院や銀行で名前を
 呼ばれてもわかりません。

手話は言語です

手話には、ろう者が独自の文化として受け継いできた日本手話や、社会の移り変わりによって生まれた日本語対応手話などがあり、それぞれ意思疎通のための大切な手段です。日本手話と日本語対応手話はそれぞれ文法体系等が異なり、手話を使う人々の間でも気持ちを伝え合うことが難しい場合があるため、それぞれの手話の違いを理解したうえで、手話の普及を図ることが求められています。

「普段の動作の中にも手話があります」

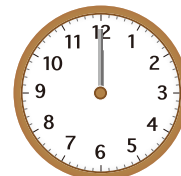
ふだんの生活の中で何気なくしている動作が手話と同じように使えることがあります。



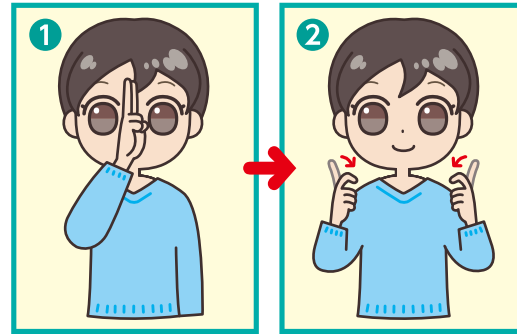
手話で話してみよう!

「こんにちは」

① 右手の人差し指と中指を立て、人差し指側を額にあてます。顔を時計に見立てたときの「12時」です。



② 両手の人差し指の腹を向かい合うように立て、おたがいがおじぎすように曲げます。



「ありがとう」

① 左手の甲に右手を垂直にのせ、右手だけを上げます。

② 頭をおじぎすように軽く下げます。

